

四日市港地震・津波対策検討会議（第4回） 議事概要

日時：平成24年6月16日15:30～17:00
場所：四日市商工会議所（1F会議所ホール）

<国会議員等>

- 地震津波対策について、国・県・地域・企業も含めて、同じ思いを持って取り組むことが重要。
- 国土交通省の防災部会において、港湾のあり方、防災の有り様についても言及されている。そこにも焦点をあてつつ進めていただきたい。
- 海上輸送ルートの確保、さらには、陸上輸送へと全体につながる対策が必要。
- 守るところは守る。最大級については、逃げる部分が大事になってくる（減災）。これを認識して考えていく必要がある。
- 三大湾（東京・大阪・伊勢湾）については重点的に対策していく必要がある。
- 四日市港の中で優先順位を決めて対応する必要があり、皆様の声をまとめていただきたい。

<自治体等>

- 昨年の東日本大震災3.11以来、海岸に面した自治体では、内閣府公表などにより防災対策の意識が一段と高まってきている。
- 霞4号幹線 早期整備を要望。建設にあたっては首長として協力する。
- 河川堤防・海岸堤防のかさ上げ、老朽化対策について国県を問わずバックアップをお願いする。
- コンビナートを有する市として危険性を危惧している。国・県・市・町で連携して、十分な対策を進めたい。
- 市民からは、「災害時には水攻め、火攻め、ガス攻め」との意見もある。四日市市としての対策は、港がカギになる。
- 県内でH21から3年間で海岸保全施設の老朽化調査を実施。四日市は7箇所改修した。今年度から2箇所を改修する。
- 緊急輸送道路として、今年度から3箇所の橋梁の耐震設計を行う

<民間等>

- 霞ヶ浦地区は、出島であり防潮堤の外側。海岸線の防潮堤に加えて霞ヶ浦地区の防潮機能の向上を要望する。
- 液状化により道路が使えなくなれば“くまで作戦”もダメになる。簡易な液状化判定を公表していただくことはうれしい。
- 石油会社は津波が来ると判っても逃げることは出来ない。船舶の緊急離棧や消火活動を優先する。そこで、有効なのはGPS波浪計の情報である。津波の規模や到達時間など詳細なデータが判るとありがたい。最終的に、いつ逃げるかが問題となってくる。
- 災害後、いかに早く商品を出すことが私たちの責務である。早期に海の安全確保をお願いしたい。

- 海側に企業、背後に地域住民が住んでいる。企業での津波対策や、港湾での対策強化が、結果として地域の皆さんを守る事になる。
- LNGの早期輸入のため、航路啓開が重要だと考えている。
- 霞地区の内陸側でもスムーズに動けるような対策をBCPに盛り込んでいただきたい。また、仙台では流出した自動車が道路を塞いだ。一掃するための重機をどのように手配するかも検討が必要となる。
- 堤外地で働く1万人の命を守るため霞4号幹線の早期完成を願う。
- 国・管理者・港運労働者のそれぞれが役割を務めることが大切であり、官・民が連携した体制の立ち上げやソフト面の充実が大切。

<国>

- 昨年、緊急時避難対策として、通信インフラが使えない事を想定して、自主的な避難判断を要請し、船の緊急離れの訓練を実施。
- 港湾BCPと港内航路の安全確保に加え、技術的支援・助言のため「海上災害防止センター」と協定を締結。今年度も引き続き検討を進めて参りたい。
- 「あり方の基本的な考え方」として、最大津波は逃げるのが基本だが、逃げるという行為が如何に難しいことか。逃げるのが困難な地域、特定の地域はもう少し守るという考え方もあるのではないか。
- コンビナートは各種法規制があるが、その境を超えて同じテーブルで議論する必要がある。地震で埋め立て地全体が液状化の被害をうける。全体としてコンビナートの対策をとる必要がある。

<座長>

- 具体的な検討になってきた。今後、2回の会議を予定しており、更に具体化に検討を進めることとしている。

以 上